

平成31年度（令和元年度） 学校自己評価表（報告）

学校運営計画			
学校運営方針	校是、校訓を重んじ、教育目標の実現に向けて全職員の英知を結集して取り組み、生徒一人一人の適性・能力を生かした進路目標の実現を図って志の高い有為な人材の育成を目指す。		
昨年度の成果と課題	平成31年度の重点目標	具体的目標	
・SSH二期目の事業内容を精選充実させ、全校体制で取り組む。 ・学校評価アンケートでは、学校の取組に対して85パーセントを超える保護者から、学校の取組に対し肯定的な評価を得ている。 ・生徒により高い目標を持たせ、進路希望実現に向けて組織的に取り組む。 ・生徒と「かかわる」教育の推進及び保護者等との連携を一層推進する。 ・校務運営会議を活用した体制で調整を図り、機能的効率的に運営する。	① 学力の向上を図り、聡明な知性を陶冶する。	SSHの取組を通じて探究的な学びを推進し、主体的に粘り強く学ぶ能動的学習者を育成する。 生徒の知的好奇心を啓発し、理解の質や思考力等を高め、確かな学力を育成する。 キャリア教育の充実により、生徒の意識啓発と進路希望の実現を図る。	
	② 気力と体力を鍛え、豊かな人間性や社会性を涵養する。	集団生活をとおして、敬愛の精神と社会性、連帯感を育成し、豊かな人間性を養う。 剛健な心身を鍛練し、健康管理を指導する。	
	③ 高い志と品性を培い、国際社会に貢献する人材を育成する。	伝統や文化を尊重する態度を育成する。 ルールやマナーを遵守させ、基本的な生活習慣を育み、社会性ある礼儀を身に付けさせる。 地域や保護者との連携を図り、高校生らしい身だしなみや生活態度を確立させる。	
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
学校運営の見地から (①、②、③について) 教育活動方針、重点目標の達成に努める。	校長は、教育理念や学校経営についての考え方を明確にする。	・校務運営会議（毎週1回）を開催し職員の学校運営参画意識を高め、共通理解を図る。	A A
	教育方針を具体化するための組織形態を有効なものとする。	・校長はリーダーシップを発揮し、学校運営を組織的に行う。 ・教職員の分担は適材適所を考え、一人一人の適性や能力を活かせるよう工夫する。	A A
	教育課題解決のための組織を機能させ、組織力を高める。	・生徒の実態を組織的に把握し、教育課題を明らかにして解決を図る。 ・教育課題を解決するための計画を作成し実行する。	A A
	SSH校及び理数科設置校として、学校の活性化及び教育活動の充実を図る。	・SSH二期目の取組を充実させる。 ・メディカルコースを含めた理数科の活性化と人気上昇に向けて、全教職員の協働体制を構築し、具体的に行動する。	A A
	学習指導において、主体的に学び、進路実現できる学力を育てる方策を立てる。	・主体的・対話的で深い学びとなる授業のあり方を模索する。 ・進路実現のための学力向上対策を講じる。	A B
	教職員が学校外に目を向け、広く実社会から学ぶ。	・各種説明会で情報公開を行い、地域・保護者の意見を聞き、校内で検討し、学校運営につなげる。	A A
教務の見地から (①について) 円滑な学校運営に	学校運営の効率化を図り、授業時数を確保する。	・SSH部と連携し、SSHの特色も出せるよう、効率的・効果的な学校運営を行う。 ・メディカルコース委員会と連携し、メディカルコースの特色を出せるように効率的・効果的な学校運営を行う。 ・年間行事計画を早期から立案し、多面的な角度から検討すると共に、分校との調整も行いつつ計画を完成する。 ・可能な限り、短縮授業等は行わず、授業時数を確保した上で、教科の実質的授業時間も保障する。 ・各行事について、前年度の指針を踏まえ、改善に	A A

資する。	学校行事の円滑な実施に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 向け適切な要領、要項を作成する。 各業務担当者と連携し、全体の調整を行うと共に、行事後は次年度を見据えて資料データを確実に保存し、共有する。 今年度の各行事の問題点を明らかにし、次年度の実施時期や内容等について検討し、年度内に部内で指針を立てる。 	A	A
	情報機器等を安全かつ適切に運用・管理し、校務の効率化を一層進める。	<ul style="list-style-type: none"> NEINグループウェアの積極的な活用を促し、効率的な校務処理を進め、生徒と関わる等の時間的余裕を提供する。 NEINグループウェアによる情報の共有によって生徒相談の内容を深める機会等も創出する。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 必ず複数の教員で処理にあたり相互に確認し合い、正確に処理が行えるように努める。 成績内規等の周知徹底をさらに進める。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 機密情報の漏洩防止、個人情報保護等について、全職員に周知徹底し、事故防止に努める。 本校のSSHを初めとする先進的な教育活動についてホームページで積極的な情報発信に努める。 	A	
生徒指導 指導」の見地から (②、③について) 挨拶、規範意識、マナー遵守の意識育成に努める。	基本的生活態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 自分の持ち物の管理を徹底させるとともに、盗難を未然に防止する。 	A	A
		<ul style="list-style-type: none"> 全生徒、教職員間で挨拶の励行を目指す。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 女子のスカート丈や髪型に対する指導を中心に、学校生活にふさわしい身だしなみの徹底を図る。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> モラル向上についての講話を全校集会で年間4回以上行う。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 校内におけるスマートフォン、携帯電話等のマナーについて指導する。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 自転車施錠の徹底や駐輪場の整備を行い、自転車盗難を未然に防止する。駐輪場の放置をなくす。 	A	
	教職員の共通理解	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導に関わる情報を確実につかみ、タイミングを外さない指導や助言を行う。初期指導・初期対応を徹底する。 指導の流れを原則に教職員全員で指導にあたる共通理解をもつ。 	A	A
		<ul style="list-style-type: none"> 未然防止に関して、防止委員会と連携する。 	A	
	いじめ問題の未然防止に向けた取組強化 《いじめ防止委員会》	<ul style="list-style-type: none"> 未然防止に関して、防止委員会と連携する。 	B	A
	いじめの早期解決に向けた取組強化 《いじめ対応委員会》	<ul style="list-style-type: none"> 問題発覚後は、管理職・学年と連携を図りながら、速やかな初期対応を徹底する。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 問題解決に向けては、丁寧な聞き取り、調査を心がけ、生徒・保護者双方の理解を得ながら進めるよう努める。 問題解決後は、関係生徒が好ましい集団生活を取り戻し、新たな活動が踏み出せるよう集団づくりを進める。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 重大事態への対応は基本方針の行動計画に沿って対応する。 	A	
	交通安全指導	<ul style="list-style-type: none"> 年1回のバイク実技講習を実施して安全指導を行う。 	A	A
		<ul style="list-style-type: none"> 自転車のマナー向上、交通規則遵守の指導を行う。 	A	
<ul style="list-style-type: none"> 交通事故を起こさない、遭わないように常に注意を促す。 		A		
地域・保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業前に保護者宛の生活指導に関する文書を配付して連携を図る。 保護者会総会や地域の声を聞く会で現状報告を行う。 	A	A	
	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会総会や地域の声を聞く会で現状報告を行う。 	A		
生徒指導の「教科外活動」の見地から (②、	学校行事・生徒会活動を通じ、相互敬愛の念と社会性・連帯感を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 自律した生徒個人の育成と集団としての自治活動を充実させる。 高生としての自覚とプライドの再確認 生徒会総務(執行部)は、リーダーシップを発揮し、活動の理解と協力を促す。 挨拶運動の実施 	A	

③について) 自主自律の精神育成、部活動活性化を図る。		生徒総会の実施 高高祭の企画・運営 球技大会の企画・運営	A	A	A
		・地域に対しての広報活動や、ボランティア活動を活性化させる。 清掃活動ボランティア参加 骨髄バンク広報活動支援 赤い羽根募金活動支援	A		
	部活動を通じ健全な心身を育成する。	・部活動への加入を奨励し、加入率80%を目指す。 部・同好会説明会実施 ・県総体・インターハイ・国体の壮行会、表彰式を行い、活動実践を激励したり評価する機会を年2回以上設ける。また、「部・同好会活動状況及び結果報告板」を通して、各部への関心を高め、応援する気持ちを喚起する。 5月県総体壮行会実施 7月インターハイ壮行会実施 9月国体壮行会実施	B	A	
進路指導の見地から(③について)	学習習慣の形成支援 ・1週21時間の家庭学習 ・初期指導の徹底 ・生徒面談の実施 ・生活記録シート(手帳)の活用	・初回授業ガイダンスの徹底 ・オリエンテーションウィークでの指導内容の充実 ・各学年での学習時間調査の通年実施 ・面談週間の設定	A	B	A
	自己理解促進支援と進路情報の提供	・各種講演会の実施 ・大学訪問 ・高大連携事業 ・各学年毎に進路ガイダンスの実施 ・模試の精選と希望者模試の受験者数の適正化 ・進路探究を目的とした総合的学習の時間の実施(SSH部と連携)	A		A
キャリア教育充実、進路意識啓発、希望達成に努める。	・進路指導室の機能強化 ・有効的な情報提供方法	・模試成績データの収集と分析、情報提供 ・各種の情勢分析や対策会議の実施(出願検討会3回、1,2年進路検討会各1回以上入試反省会、職員対象講演会、教科会議等) ・成績向上のためのプラン提案・相談の実施 ・学年通信における進路情報の提供(月1回以上) ・保護者向け進路通信の発行(年4回) ・保護者向け進路講演会の実施(年2回) ・進路指導室・資料の活用促進対策 ・県外有力校視察 ・教科選択冊子の改定及び新規作成	B	A	
	3年次の進路実現に関する支援 ・センター試験の出願率95%、 ・センター試験の7科目型90%以上(在籍者比率) ・大学等の進学率85%以上、 ・国公立大学合格者数 140人 ・東大、京大、医学科 5人 ・難関国公立大 15人	・入試問題研究(通年) ・検討会の実施(7,12,1月の3回) ・大学別ガイダンスの実施(7月、10月) ・学習合宿(夏) ・ハイレベル・大学別模試の実施 ・他校情報の収集	A	A	A
学習指導の見地から(①、③について)	学ぶ意欲や学び方を身に付けさせる。	・「総合的な学習の時間」などを使って学習動機を明確にし、学び方を身に付けさせる。(1,2学年)	A		A
	十分な補習体制を整備し、適切な計画を立てる。	・効果的な内容の補習を計画し、適切に配置することで生徒が満足できる補習を行う。(全学年)	A		
キャリア教育による進路意識の涵養を図る。	進路意識を育てる。	・企業、オープンキャンパスに参加し進路実現への意識を更に明確にさせる。(2学年)	A		A
	コミュニケーション能力を育てる。	・オリエンテーションウィークを実施し、これからの高校生活や進路希望実現への意識を明確にさせる(1学年)。	A		
	社会性を育てる。	・進路講演会、社会人講演会などを実施し、将来の具体的な目標を明確にさせ、社会で必要なことを考えさせるとともに、進路実現に向かった学習	A	A	

		意欲の向上を図る。(全学年)			
		<ul style="list-style-type: none"> 政治や選挙等に関する知識の理解と体験的な教育活動を通じて、有識者として求められる力を身に付けるとともに課題を協働的に追求し解決する力を培い、社会の形成者としての資質や能力を育成する。 	A		
教育環境の見地から(②について) 心身の健康を保ち、豊かな人間性や社会性を培う。	心身の自主的な健康管理ができる生徒の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健計画に基づき、健康診断や健康相談等を実施し、生徒一人一人の心身の健康状態を把握する。 	A		
		自己の健康課題を自主的に解決できるよう以下の指導を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> 健康相談を充実させ一人ひとりの個人のレベルアップを図る。 学校医等、他機関と連携した保健指導を実施する。 定期的に保健だよりを発行する。 生徒保健委員会を活性化する。 	A	A	
	清潔な学習環境を整える。	清潔な学習環境を整えるための方策として以下の事柄を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> 職員の監督の下、毎日の清掃を確実に実施する。 大清掃で更なる校舎の美化に努める。 清掃用具の整備・充実に努める。 年3回のモップ交換を行う。 美化委員会の活性化を図りながら、年2回の校地内の整備を行う。 	A	A	A
	安全管理に留意し、事故の防止に努める。	安全管理に留意し、事故の防止に努めるため以下の事柄を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> 消防署と連携して年2回の防災訓練を実施する。 事故発生時の校内救急連絡体制を確立する。 	A	A	
	不登校傾向の生徒への早期対応に努める。	不登校傾向の生徒及び特別支援を必要とする生徒への早期対応に努めるための方策として以下の事柄を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> 学年と連携し実態の把握に努め、対応について協議する。 職員研修会、生徒向け講話を実施する。 生徒相談室、医療機関等との連携を深める。 	B	B	
	生徒の読書意欲を高めるための資料選定と広報活動に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 基本図書を中心に、調べ学習や小論文指導に利用できる資料を重点的に購入する。 掲示板の活用や広報誌の発行を通して、広報活動に努める。 「高田高校推薦図書」を紹介する。 	A		
	教科との連携を密にし、学習資料の充実と活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 新入生の図書館オリエンテーションを早期に実施し、図書館に親しみを持たせるとともに、図書資料の利用方法について学ばせる。 日常的な利用指導を通じて、利用マナーの向上を図る。 	A	A	
	図書委員の自主的な活動を促す。	<ul style="list-style-type: none"> 図書の貸出・返却業務や広報誌の編集等、図書委員が主体的に活動するよう促す。 年1回の蔵書点検を通し、蔵書の管理及び蔵書構成について検討する。 コンピュータ利用による蔵書管理・検索の早期実現に向け環境整備を行う。 	A		A
	保護者会との連絡・調整にあたる。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会会員名簿を年1回作成する。 保護者会総会を年1回、保護者会役員会を年2回開催するための準備を行う。 	A		
各分掌と連携し、保護者に学校の情報を伝える場の設定を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会便りを年3回発行する。 学年・分掌と連携し、保護者会総会・役員会の出席者の増加に努める。 	A	A		
1学年の見地から(①、②、	心身を鍛え、質実剛健の精神を培う。	<ul style="list-style-type: none"> 高高生としての誇りを持ち、自ら考え、節度ある行動をとる。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> 学校行事、部活動に積極的に参加し、苦しくても頑張り抜き、充実した高高生活を目指す。 	A	B	

③について) 高高生としての誇りを持ち、高高生活を確立する。	高い目標を掲げ、基礎学力を充実させるとともに、何事に対しても粘り強く取り組む堅忍不拔の精神を養う。 社会の一員としての規範意識を持ち、自主自律の精神を養う。	・自己管理を心がけ時間を守る。	B	A
		・予習・授業・復習のサイクルを確立し、意欲的に学ぶ姿勢を身に付ける。	B	
		・「手帳」を活用することで、自分の生活習慣を見直し、自己管理能力を高める。	A	
		・自己の進路希望をできるだけ明確にし、文理選択を決定できるようにする。	A	
		・互いに切磋琢磨し、自らの能力を高め、規律ある生活を送ることで、学年集団の向上を目指す。	B	
		・学びの場として、校内の清掃を徹底し、学年・学級の雰囲気づくりを心がける。 ・挨拶を心がけ、周囲への思いやりや、感謝と尊敬の念を忘れずに行動する。	A	
2学年の見地から(①、②、③について)志を持って、自主的に高高生活に取り組む。	進路希望実現のために努力し続ける姿勢を持たせる。 基礎的・基本的学力を完成させ、自主的に学ぶ姿勢を育てる。 中堅学年として、校内活動の中心となって動く意識を高める。	・日常的な声かけや面談を通しての情報を適切に共有し、生徒の抱える問題に速やかに対処する。	A	A
		・東京・ベトナム研修を中心に進路意識を啓発する。	A	
		・予習・授業・復習のサイクルを確立・習慣化させるとともに、授業への集中力を高める。	B	
		・「手帳」を活用して、3点固定、週21時間以上の家庭学習習慣を確実なものにする。	B	
		・部活動、学校行事、MSBを通じて、自発的なリーダーシップや協調性を育てる。自己管理を心がけ、5分前完了を目指す。	A	
		・心身ともに健康的な生活を奨励し、服装・挨拶、清掃の徹底などに関して粘り強く指導する。	B	
3学年の見地から(①、②、③について)最高学年としての自覚を持ち、進路実現に挑戦する。	最高学年としての自覚を持ち、何事にも自ら進んで取り組む姿勢を育てる。 自主的な学習習慣を完成させ、より高い学力を身に付けることで、進路希望を実現させる。 保護者や家庭との連携を密にし、心身の健康を支援する。	・服装の見直し・清掃の徹底・挨拶の励行などの基本的生活習慣を確立させる。	A	A
		・行事や部活動を通じて、より高いチームワークやリーダーシップを身に付けさせる。	A	
		・日々の活動を通して、互いに切磋琢磨する集団を形成する。	A	
		・「圧倒的な基礎力」を目標に、意欲的に学ぶ姿勢を大切に、授業に集中して取り組むよう指導する。	A	
		・手帳を活用し、効果的な家庭学習や生活習慣の確立をサポートする。	A	
		・進路指導部と緊密に連携し、よりよい進路選択ができるよう指導する。 ・学年集会や学年通信を通して、学年全体の進路意識高揚を図る。	A	
理数科運営委員会の見地から(①、③について)理数教育の充実と改善を図る。	理数科の特性を活かし、理数教育の充実を語る。 本校理数科の魅力を中学校ならびに中学生に対し伝え、理数科への志望率安定を語る。 SSH運営において、魅力ある理数科を構築するプランを提案する。	・三者面談などを通じて、家庭と連携しながら生徒を支援する。	A	A
		・日常的な声かけ、面談等を活用しながら、生徒の問題把握に努め、学年全体で迅速な対応を行う。	B	
		・高大連携事業等を通し、生徒の理数科目に対するモチベーション、ならびに探究心、確かな学力の定着を図る。	A	
		・理数科集会等を通し、理数科全体の結束力を図る。	A	
		・新潟県理数科連合アメリカ研修への参加生徒人数を8名以上にする。	B	
		・中学校訪問を行い、中学校側に本校理数科の魅力を工夫して説明する。 ・オープンスクール、青少年のための科学の祭典等、本校理数科生徒自らによる、理数科の魅力を中学生等にアピールする場を積極的に設ける。 ・中学生と本校理数科生徒が学び合いながら、本校の魅力を伝える場を設ける。	A	
SSH部の見地から	多角的視点・科学的倫理観を備え、科学技術の有用性を理解する能力を育成する。	・SSHにおける理数科充実のプランを検討する。	B	A
		・SSH運営において、SSH部への全面的な協力をする。	A	
SSH部の見地から	多角的視点・科学的倫理観を備え、科学技術の有用性を理解する能力を育成する。	・理数科で実施されるMCSの活動をとおして、旺盛な探究心と創造性、課題設定能力、課題解決力及び高いコミュニケーション能力を育成する。	A	A

ら(①、③について) 日本の科学技術の未来を支える人材の育成を図る。		<ul style="list-style-type: none"> ・学年縦断型の探究グループ「ミラクルラボ」を組織して学び合いを実践することにより、高いコミュニケーション能力及び自主性を養う。 	A	A	A
		<ul style="list-style-type: none"> ・大学や地元企業との連携を図り、課題研究ならびに発表会を実施し、最先端の科学技術に触れ創造性、探究心を養う。 	A		
	科学技術の発展に寄与できる論理的、批判的に思考する人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・MSB（MC探究）の活動をとおして、科学的探究心、論理的思考力、コミュニケーションと表現能力を養う。 ・CTで扱った科学的テーマをベースにした英語によるプレゼンテーション活動を行い、英語での伝達能力を養う。 	A	A	
	郷土の自然・産業を理解し、科学をテーマに世界の人々をつながる力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・クロスカリキュラムの実践をとおして、過去の科学的業績と最先端科学との結びつきを実感を持って理解する。 ・地域に関係する科学史をテーマに、地域環境、企業、人物について学ぶ。 	A	A	
	地域と世界を結ぶグローバル人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外のSSH校とのネットワークや海外で活躍する卒業生とのネットワークを構築し、国際性とコミュニケーション能力を育成する。 	A	A	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営においては、校長のリーダーシップの下、SSH総務を中心に、課題を克服し、課題研究や探究型学習の充実、国際性の育成を図る取組を進めることができた。また、2期目SSHの2年目で全校体制を強固にする議論をすすめた。 ・教務関連では、授業時数の確保、学校行事の円滑な実施、成績処理の処理などを中心に、確実に迅速な校務運営を行うとともに、昨年度からの課題を改善することができた。 ・生徒指導では、活発に学校行事、生徒会活動、部活動を推進することで、生徒の自主性、社会性を醸成することができた。 ・進路指導では、2年生の東京研修において体系的なキャリア教育を実践し、生徒の進路意識を昂揚させ、進路希望達成に向けて学校全体で取り組むことができた。 ・教育環境では、主に保健管理や校内の安全管理、特別支援教育、いじめ防止に尽力し、生徒の悩みに寄り添う学校の教育環境づくりを強化することができた。 ・学校評価アンケートの結果から、昨年度を上回る9割近くの保護者から本校の取組や教育活動に高い評価を得ることができた。教育活動の方向性は理解されている。 		総合評価		A